

まちづくり市民意見交換会 開催結果

1. 開催目的

第7次総合計画策定に向け、上越市の現状と課題や令和22年（2040年）の人口予測等を説明し、将来のまちの理想の姿やその実現に向けた取組などについて意見交換を行い、計画に反映することを目的とする。

2. 内容

- ・市からの話題提供：上越市の現状とこれからのまちづくりについて
- ・4人程度のグループに分かれ以下2点について意見交換を行った
 - ①「10年後、20年後、上越市はどんなまちになっていけばいいと思うか」
 - ②「上越市を魅力的なまちにするために必要な取組は何だと思うか」

3. 会場別の開催状況（参加者数：72人）

日時	会場	参加者数
5月10日（火）18：30～20：00	板倉コミュニティプラザ 市民ホール	15
5月11日（水）18：30～20：00	浦川原コミュニティプラザ 市民ホール	12
5月12日（木）18：30～20：00	ユートピアくびき希望館 第3会議室	14
5月13日（金）18：30～20：00	市民プラザ 第3会議室	13
5月14日（土）14：30～16：00	市民プラザ 第3会議室	18
合計		72

※参加者の年代層：20代～80代、そのうち60代以上が全体の53%であった。

（市民意見交換会の様子）



4. ウェブでの意見募集（意見者数：65人）

4月25日（月）～5月20日（金）まで、市ホームページにて市民意見交換会と同様に①②の意見を伺った。

※意見者の年代層：10代～70代、そのうち30代以下が全体の69%であった。

5. 主な意見

市民が主役のまちづくり

- ・子どもが大人になった頃、安心して帰ってこいと言えるまち (30代)
- ・子どもが帰ってきたいと思うまち。地域で受け入れてくれるまち (30、60代)
- ・こどももおとなも安心し、ここが自分の居場所と思いながら暮らせるまち (40代)
- ・人口減少率が県内でも一番少ないまち (20、40代)
- ・コミュニティが維持されたまち。思いやりがあって助け合いができるまち (60、70代)
- ・都会の価値観ではなく、多様な価値観で自分らしくいられて、楽しいまち (40代)
- ・上越市を象徴するもの、突き抜けたものを磨き、市民が誇りに思うまち (30、40代)
- ・「上越と言えばこれ!」といった市民が一つになれる一体感があるまち (50代)
- ・市民が上越市の魅力について学ぶ機会があり、好きになっている (20代)
- ・転出した人の子ども世代にアプローチし、上越に馴染みのある人が移住する (20代)
- ・無理なく働き子育てしながら、田舎の暮らし方が楽しめるまち (40代)
- ・UIJ ターン者を支援する仕組みはある。上越市から転出しない若者への優遇 (30代)
- ・若い人、女性、障害のある人…様々な人がまちづくりに関わっているまち (40代)
- ・自分事としてまちのことを考えている人がたくさんいて、市民活動が盛んなまち (70)
- ・まちづくりのリーダーが育てられているまち (70代)
- ・若手キーマンの活躍を行政がサポートし、市内でも認知度が上がっているまち (60代)
- ・上越に住んでいなくても関わったり応援できるまちづくり。定住につなげる (70代)
- ・定年が伸びている中、地域行事を行う余力がない。続ける行事、やめる行事があってもよいと思う。都会のように栄えることは不可能だから、コンパクトシティ化を行うなどして、綺麗に幕を閉じる (20代)
- ・それぞれの地域の特性を活かす、地域ごとの計画があるまち (70代)
- ・区で行っている地域の祭りなど、区単位で区切らず、実行委員に他地域の人が入るなど、外部とも交流しながら取り組む (20代)
- ・自分たちが頑張らなくても街は発展するという意識を変えるべき (20代)

防災・防犯分野

- ・空き家等の荒廃した建物がなく、治安が良く子どもが安心して外で遊べるまち (70代)
- ・治安が良く、子どもたちが元気に体を動かせるようまち (20代)
- ・災害に強く、安心安全に暮らせる (40代)

環境分野

- ・豊富な水資源や、雪国ならではの利点をいかしたまち (20代)
- ・自然が美しいまち。草刈りで手入れされていれば、ポイ捨てもされない (40代)
- ・心豊かで持続可能な社会を子どもたちに届けることができるまち (60代)

健康福祉分野

- ・子育て世帯にとって住みやすいまち (30代)
- ・子育てや老後に安心して暮らせるまち (30代)
- ・障害者に優しく、引きこもりが解消されたり、精神的に元気になれるまち (60代)
- ・一人になっても自分の住みたいところに住み続けられる見通しがあるまち (40、50代)
- ・子育て、教育、医療制度が充実したまち (40代)
- ・若者世代を支えるためにも、高齢者が健康で働ける場の創出が必要 (40代)
- ・保育園の費用が無料で、保育園に預けて働き、市内に稼ぎを生み出せるまち (30代)

産業・経済分野

- ・人が入ってきてくれるまち。観光客がたくさん来てくれて、賑やかで、さらに上越の良さを知った人が商売を始め雇用があり、住んでみたいと思ってもらえるまち (60代)
- ・デジタルを活用し、様々な業種がそろい、若者が働く場を選択できる (20、40代)
- ・人口減少で困っていることを若者がビジネスチャンスとして可能性を感じるまち (30代)
- ・市外に住んでいる人の意見を聞いて取り入れ、戻りたくなるまち (20代)
- ・活気があふれ、20代後半から30代が来たいと思えるまち (20代)
- ・企業すべてが子育て世帯に休みやすい環境を整えているまち (30代)
- ・事業者は従業員に市内の歴史文化、スポーツ、地域活動等に触れる機会を作る (20代)
- ・大型スーパー、商業施設を充実させて、商店街にも人の流れを作り、たくさんの方が訪れ賑わいのあるまち (40代)
- ・商店街に活気があって、ぶらぶら歩きながら買い物やお茶ができる場所、食べ歩きができるまち (20、40代)
- ・魅力的な企業の誘致。直江津は新しいお店が進出して、少し変化した気がする (40代)
- ・長野、富山、新潟エリアとの連携。隣県を見習い、具体案を考える (40代)
- ・うみがたりだけに頼らず、既存の施設と一緒に楽しめるルートや催しをPRする (60代)
- ・ふるさと納税が充実し、訪れてみたくなる、再訪したくなるまち (30代)
- ・賃金の高い地域に人が流出している。市内企業に働きかけ賃金を上げる (30代)
- ・SNS情報発信で、県外の友人に自慢できる魅力があり、帰省が楽しみになるまち (20代)

農林水産分野

- ・市民が中山間地域の重要性、棚田の機能等を認識し、維持に協力している (40代)
- ・豊かな食、田んぼや里山の美しい景色が受け継がれているまち (60代)
- ・無農薬で安心安全な食べ物で子どもを育てることが魅力なまち (40代)
- ・地域の特産物など小さな地域の特色を大事にして稼ぐ (大企業とは反対の発想) (40代)
- ・6次産業が盛んで、若者が農業に関心を持ち、担い手となっている (60代)
- ・食料危機に陥らないまち (50代)

教育・文化分野

- ・教育に力を入れて子どもたちが活躍できるまち（40代）
- ・外国人材が活躍し子どもと関わることで、国際感覚を育てる教育（20代）
- ・大人が上越を楽しんでいる姿を見せ、子どもも上越に興味をもつ（50代）
- ・「あなたは地域の大事な一員」といった意識を育て、子どもに残ってもらう教育（50代）
- ・「ここは田舎だから、何もない」といった漠然とした劣等感を子どもに受け継がせない。足を運び地元を知る。歴史を知ることによって上越への愛着が生まれる。市外に出かけ上越の特性を振り返ったり、都市に触れることで視野が広がり多様な考えに寛容になる（20代）
- ・子どもたちや若い世代への良い記憶づくりができていくまち（40代）
- ・有料でもいいから雨天でも遊べる屋内施設があり、子どもが楽しく過ごせる（30代）
- ・新潟市のサッカーのようにスポーツ事業を盛んにし、他県他市から愛されるまち（30代）
- ・若者が市外に行かなくても希望する専門学校や大学があるまち（50代）
- ・子どもが自己肯定感を高め、夢や希望をもって過ごすことができるまち（40代）
- ・1度社会に出ても、学び直しができるまち（40代）
- ・新しいものを積極的に取り入れ、古いものを大切にすまち（20代）

都市基盤分野

- ・交通網が整備され、年寄、独り暮らし世帯、障害者の住み良いまち（40代）
- ・各高校行きのバスが整備され子育て世帯にとって住みやすいまち。送迎負担があり女性は職種も自由に選べない（30代）
- ・せっかく新幹線が停まる駅があるのだから、駅周辺に商業施設が多くあるといい（40代）
- ・五智公園や高田公園に軽食のキッチンカーが時々いてくれたら、魅力が高まる（60代）
- ・空き家への移住支援で空き家が活用されている。特に都会から戻ってくる人向け（40代）
- ・こどもも大人も集う場所ができ、地域のつながりができる場所がある（40代）
- ・たにはま公園がネモフィラの花で満開になるまち。新緑の時の魅力を高める（30代）
- ・歴史に囚われすぎている。新しい時代を作ることも大切。若者が楽しめる施設を増やす（10、20代）

その他、行財政など

- ・将来世代のことを考えたまちづくり。不要な施設や事業の見直し、未来への投資（30代）
- ・民間企業の力をいかしたまちづくり。市役所業務のアウトソーシング（30、60代）
- ・人口減少は仕方ないので、それぞれがのんびり生きていけるまち（30代）
- ・県内第三都市ならず、第二都市を目指すまち（30代）
- ・議員や役所職員がやりがいをもって、いきいきと働いているまち（40代）
- ・高齢者や一部の人の声だけではなく、若者等の意見を聞く工夫でまちづくりを進めてほしい（30代）

市民が思う魅力や強み・不安や弱み

※市民の声アンケート、グループインタビュー、市民意見交換会、まちづくりに関する意見募集（Web）等の主な意見

区分	歴史・伝統・観光	地理的条件・交通
魅力・強み	<ul style="list-style-type: none"> ・登録有形文化財でスイッチバックを行う二本木駅(中郷) ・親鸞聖人上陸の地「居多ヶ浜」 ・マゼランペンギン飼育数世界一のうみがたりをはじめ、謙信公武道館、上越体操場など、集客力のある施設がある(大潟) ・親鸞聖人の妻である恵信尼(板倉) ・全国のライダーが足を運ぶ風巻神社(三和) ・総延長日本一の雁木 ・上杉謙信や春日山城 ・高田城址公園、三重櫓 ・郵便の父「前島密」 ・日本ワインの父「川上善兵衛」 ・発酵学の父である「坂口謹一郎」(頸城) ・地域の象徴を「地域の宝」と認証する制度 ・古墳(清里、三和、牧など) ・合併による特色ある地域が集まった多様性 	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路、港、新幹線が整備され、どの方面にも程よい距離でアクセスしやすい <ul style="list-style-type: none"> 上信越自動車道 北陸自動車道 小木直江津航路 北陸新幹線 ・大規模商圏である関東に近く、農産物等の販促がしやすい ・輸送網の充実により、人の移動・物流で優位性がある産業立地 ・上越妙高駅周辺のローカル5G施設

不安・弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源が有効活用できていない ・情報発信(PR)が不十分 ・歴史資源はあるが、観光地整備が不十分 ・都市圏での知名度の低さ ・上越市の魅力を外部に宣伝するとき、一言でうまく伝えられない ・観光客が地元商店街に訪れていないため、地元にお金が回っていない ・魅力や地域課題に市民が気づけていない ・スポットは点在するが、長期滞在につながっていない ・魅力は多いが、誇りや愛着の醸成につながる象徴的なものがない 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の利便性はあるが、通過点となってしまうことが多い ・高齢者の増加に伴う免許返納後の公共交通に不安 ・自家用車がないと生活しづらい
-------	--	---

区分	自然	食
魅力・強み	<ul style="list-style-type: none"> ・信越トレイル(板倉、清里、牧、安塚、大島) ・水源となるブナ林(大島、名立など) ・海と山の両方を有している ・パラグライダーなどアクティブスポーツやアウトドア(吉川) ・雪を有効活用した雪中貯蔵施設「ユキノハコ」(安塚) ・雪解け水がもたらす豊かな水による良質な農産物 ・棚田(清里など) ・四季が明確 ・四季を通じたイベント 春:観桜会 夏:観蓮会 秋:古径の紅葉 冬:レルヒ祭 など ・海水浴場 ・高田平野 ・くわどり市民の森や地球環境学校などの自然とのつながりを学習できる環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国初の「どぶろく特区」認定(牧) ・よしかわ杜氏の里(吉川) ・メイドイン上越に認定された特産品 ・雪むろ酒かすラーメン、さかきん鍋などの名物 ・9年連続特A評価の上越産コシヒカリ ・豊かな海と山の幸 ・酒(日本酒・ワイン) ・くびき牛、なごみ豚 ・上越野菜 ・発酵のまち上越
不安・弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・離農に伴う遊休地及び耕作放棄地の増加 ・地すべり地域であり、大雨や台風時は危険(牧・板倉) ・鳥獣に関する抜本的な対策ができず、農作物等の被害が拡大 ・海沿い地域における塩害 ・若者世代や移住検討者が懸念する積雪量の多さ ・不在地主の増加による森林の未整備 ・豊かな自然の魅力をいかしきれていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市産のお米や農産物のおいしさに気づいていない(県外に転出してから気づく)

区分	暮らし	市民活動
魅力・強み	<ul style="list-style-type: none"> ・農業移住者の受け皿となる組織(柿崎など) ・比較的災害の少ない地域 ・支援の充実をはじめ、子育てをしやすい環境 ・市街地、田園地域、中山間地域など様々なエリア ・除雪体制が整っている ・若い人がまちに入ってくる(とどまる)要素となる上越教育大学や県立看護大学、自衛隊駐屯地 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が気軽に集まれる団体の存在 ・NPOなど市民活動が盛ん ・地元企業からの地域活動への支援体制 ・地域資源を主体的に活用して行動している住民 ・地元愛がある若者 ・灯の回廊など地域主体の催しの多さ(浦川原など) ・行政からも、積極的に地域の団体の会議に参加している地域がある(中郷など) ・地域内で団体同士の連携がとれていて、市民活動が活発な区がある(中郷など)
不安・弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・限界集落の増加により、集落活動の維持、継続が困難 ・若者を中心とした区外転出が多く、結果として出生数の著しく減少(13区) ・未管理空き家の増加による景観、環境の悪化 ・公共施設の老朽化 ・児童生徒の減少 ・地元小売店の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業、商業を問わず、後継者や担い手不足 ・町内会等住民組織の活動衰退 ・各地域に担い手はいるものの、連携が不足 ・地域の担い手となりうる若い世代の発掘 ・若者を中心とした市民活動団体の少なさ ・行政と市民団体の連携はあるものの、まだまだ不十分

区分	市民の性格
魅力・強み	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者などのよそ者に対する思いやり ・住民同士の助け合いの精神 ・人情味があり、心が温かい ・地域を支える元気な高齢者の多さ ・上越愛を持っている人の多さ ・自然を大切に思う人の多さ ・素直 ・辛抱強さ、我慢強さ ・自然が豊かで感性豊かな子供の多さ
不安・弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・地元を好きだと堂々と言える人が少ない ・控えめな県民性(PRべた) ・他人に迷惑をかけないようにする傾向があり、他人に助けを求めず、自分一人で我慢してしまうこと ・伝統を大事にするが、新しいことに挑戦しない傾向があること

各分野の2040年の上越市のありたい姿

第6次総合計画評価・検証（行政内部）					市民の意見		2040年のありたい姿 (キーワード)
政策分野	基本政策	主な取組	主要な検討課題	ありたい姿	グループインタビュー：青 まちづくり市民意見交換会（Web含む）：緑	第1回総合計画審議会での意見：紫 市民の声アンケート：赤	
市民が個性と能力を 発揮できるまちの 実現	市民が個性と能力を 発揮できるまちの 実現	<ul style="list-style-type: none"> ・企業研修会や地域人権懇親会、同和教育研究会の開催 ・広報上越等でLGBT問題の紹介 ・インターネットによる人権侵害について紹介 ・広報上越や市からのお知らせを多言語化 ・上越国際交流協会のサポート体制を構築 ・不安や問題を抱えている女性への支援 ・第4次人にやさしいまちづくり推進計画に基づく取組実施 ・福祉関係イベントへの出展 ・学校、企業での出前講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを介した人権侵害や新たな偏見、差別への対応 ・増加が想定される外国人市民が安心して暮らせる環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な生き方（多様性）が認められている ・人権が真に尊重される地域社会となっている ・平和に関する関心が高い状態となっている ・差別のない社会が実現されている ・外国人市民が地域の担い手となっている ・DVに関する相談件数が減少している ・誰もが安全、安心で快適に暮らしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が進んでも、住んで居心地よく、幸せを感じている ・若い人、女性、障害のある人など、様々な人がまちづくりに関わっている ・都会の価値観ではなく、多様な価値観で自分らしくいられる ・無理なく働き子育てしながら、田舎の暮らしを楽しんでいる ・若手キーマンの活躍を行政がサポートし、市内でも認知度が上がっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害のみならず戦争などの人災への備えも議論する必要がある ・男性の育児休業などの支援が必要 ・まだまだ女性が意見を出しても受け入れてもらえない地域がある 	<p>①自分らしい生き方ができている</p> <p>②多様性が認められ、誰一人取り残されない社会となっている</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・町家シェアハウスの整備 ・市内在学高校生によるPR映像作成、配信 ・移住・定住コンシェルジュを配置 ・移住・定住に関する相談や情報発信体制の強化 ・移住定住応援家賃などの支援 ・市民活動等に関する情報収集・発信・コーディネート ・住民組織の活動に対する支援 ・中山間地域支え隊による地域活動への参加 ・地域協議会における自主的審議 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少社会における女性の一層の社会進出、活躍に向けた環境づくり ・人口減少、少子高齢化の更なる進展に備えた、市民活動や地域活動の次世代を担う人材の発掘と育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・市を好きになる人や応援する人が増えている ・就職や結婚、出産などを契機にUIターンする若者が多くなっている ・市民がまちづくりに参画し、充実感を得て生活している ・労力が不足する中山間地域をまち全体で支えている ・持続可能な地域コミュニティ組織が形成されている ・各地域で課題解決に向けた議論が交わされている 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自ら残りたい、戻りたいと思っている ・市民一人一人が地域に愛着を持っている ・若い人が地域に愛着を感じ、定着している ・若者が入ってしやすい地域となっている ・活力とコミュニティが維持されている ・市民活動が活発でまちに活力があふれている ・個性のある地域が一体感を持っている ・子供が大人になったころ安心して帰ってこいと言っている ・人口減少率が県内でも1番少ない ・人口減少が進んでも不便なく住み続けることができている ・思いやりや助け合いによって、地域のコミュニティが維持されている ・まちづくりのリーダーが育てられている ・「上越と言えばこれ!」といった市民が一つになれるような一体感がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が元気で暮らせるため市民活動の活性化が重要 ・集落の維持、空き家問題、学校の統廃合の背景にある人口減少問題への対応 ・多くの若者が帰ってきて上越市でしっかり仕事ができて家族と共に楽しく過ごせる良いまちづくりを望む ・就職や進学で市外・県外へ行った方々が再び上越へ帰って来たいと思うことが出来るまちづくりをお願いしたい ・人口減少が続く中で海外も含めた人口交流 ・地域力の低下がみられる新興住宅地では、地域に根差した活動に取り組むため、キーパーソンの発掘が必要 	<p>③市民一人一人が地域に愛着や誇りを感じている</p> <p>④若者が戻り、移住する人が増えている</p> <p>⑤あらゆる主体が「自分事」としてまちづくり・地域づくりに関わっている</p>

第6次総合計画評価・検証（行政内部）					市民の意見		2040年のありたい姿 （キーワード）
政策分野	基本政策	主な取組	主要な検討課題	ありたい姿	グループインタビュー：青 まちづくり市民意見交換会（Web含む）：緑	第1回総合計画審議会での意見：紫 市民の声アンケート：赤	
防災・防犯分野	大規模災害への備えの確保	<ul style="list-style-type: none"> 職員連絡メールの送受信訓練 洪水及び土砂災害ハザードマップの更新 避難所の見直し 避難行動要支援者の避難環境確保 主要2橋梁の橋梁耐震化 ガス管網のブロック化の推進 雨水幹線の整備 排水ポンプ車1台を配備 保倉川放水路及び儀明川ダム of 早期建設に向けた要望強化 	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害の頻発化・激甚化に備えた一人一人の危機管理能力の向上とまちの強靱化の推進 各種インフラの経年劣化を踏まえたダウンサイジングや維持補修 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化が進む地域をはじめ、少ない人員や負担で適切な災害対策がとられている 放射性物質の放出リスクがなく、市民の安全が確保されている 将来に渡り、持続的、安定的にライフラインのサービスが提供されている 耐震化や治水安全度の向上が図られ、大規模災害の防止、軽減が図られている 空き家件数が減少している 	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人一人が「自分の身は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自助・共助の意識が高まっている 災害に強く、安心安全に暮らせている 	<ul style="list-style-type: none"> 国土強靱化の取組をソフト、ハードの両面から様々な分野が連携して対策に取り組む必要がある 防災意識の向上や災害の激甚化に向けた取組が必要 高齢者や障害者の災害時の避難方法を確立してほしい 子どもたちが住みやすく、災害に強いまちづくりに取り組んでほしい 100年に一度の台風被害にも耐えうる対策を望む 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥あらゆる災害への備えが整っている ⑦誰もが災害時に自分がとるべき行動を理解し、相互に共有している
	日常的な災害への対応力の強化	<ul style="list-style-type: none"> 上越地域消防局、上越消防署の整備 常備消防と消防団による合同訓練の実施 町内会等への防災アドバイザーを派遣 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少下における消防団員の確保と地域消防力の維持 	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人一人が災害時に自分がとるべき行動を理解し、平時からの備えができています 消防団員が確保され、地域消防力が維持されている 消防水利が確保され、消防資機材が円滑に更新、整備されている 			
	防犯・交通安全対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> 悪質商法被害の回避に向けた出前講座 保育園・幼稚園、小学校への防犯教室の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 悪質商法等に関する相談増加を踏まえた被害に遭いやすい若者や高齢者への啓発の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 地域全体で防犯活動が行われ、市民一人一人が防犯に対する知識を有している 全世代において消費生活を送る上で、犯罪の被害に遭う人がいない 犯罪の機会がなく、子どもが安心して登校している 交通事故が減少している 	<ul style="list-style-type: none"> 治安が良く、子どもが安心して外で遊ぶことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 街灯が少ない住宅地に街灯の増設をお願いしたい 子どもが安全、安心に生活できるまちづくりに期待しています 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧犯罪や交通事故が少なく、まちの安全安心が守られている

第6次総合計画評価・検証（行政内部）					市民の意見		2040年のありたい姿 （キーワード）
政策分野	基本政策	主な取組	主要な検討課題	ありたい姿	グループインタビュー：青 まちづくり市民意見交換会（Web含む）：緑	第1回総合計画審議会での意見：紫 市民の声アンケート：赤	
環境分野	地域環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に対するごみ分別の出前講座の実施 ・小学生を対象としたクリーンセンターの見学会の開催 ・ごみヘルパーの派遣 ・ごみ分別辞典の運用開始 ・大気汚染物質の濃度情報の確認 ・事業場の騒音測定 ・居住地域等における騒音振動の測定 ・生活排水処理推進員の戸別訪問 ・公共下水道と農業集落排水処理施設を統合 ・頸北の池沼群を自然環境保全地域に指定 ・自然観察ツアーの実施 ・大型野生動物による被害防止に向けた学習会の開催 ・人身被害防止の意識啓発 ・出没対策としての緩衝帯整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄や野焼き等の減少に向けた啓発の強化 ・平時のみならず、災害などの有事の際、災害廃棄物の処理を担う最終処分場の早期整備 ・特定外来生物の生息 ・育成域拡大を踏まえた環境保全活動の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・3R（リデュース、リユース、リサイクル）が徹底され衛生的な環境が維持されている ・災害廃棄物の処理体制が拡充されている ・ランニングコストが削減され、効率的かつ安定的な施設管理が行われている ・下水道等への接続率が100%となり、市全体の公共用水域の水質が向上している ・豊かな自然が大切に守られ、良好な環境の中で心地よく生活ができている 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が自慢したくなるような街中でも自然を感じるような景観が形成されている ・桜、山、海などの上越ならではの魅力が活かされている ・豊富な水資源や、雪国ならではの利点が生かされている ・草刈りなどの手入れが行き届き、美しい環境が整っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・財産である豊かな自然環境をどう維持していくか、どう市外に向けPRするかが大切 ・自然環境に配慮したまちづくりをしてほしい ・路上にフンやごみがあり不衛生。注意看板を設置してほしい ・リサイクルした物を使うといった取組がもっと必要であると思う 	⑨良好な生活環境や豊かな自然環境が維持されている
	地球環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・地域特性等を踏まえた再生可能エネルギーの普及推進 ・雪室を活用した農産物の高付加価値化、ブランド化 ・公共施設の省エネ化 ・環境団体等との情報交換会の開催 ・団体同士のネットワークづくりや連携強化 ・環境学習会や環境出前講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取組の推進 ・環境団体等の担い手の高齢化を踏まえた次世代を担う人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス排出量の計画目標を達成し、安全で暮らしやすい生活や豊かな自然環境と多種多様な動植物種が保全されている ・環境情報に触れ、市民一人一人が日常から環境にやさしい取組を意識して行動している 	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーが地産地消されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に恵まれた上越市がカーボンニュートラルに向けて取り組むことは価値をさらに高める ・豊かな自然環境を守るため知っているから実際の行動に移していくことが重要 ・温暖化による環境の変化をととても危惧している。子ども達の未来の上越市をどうつくっていくか、つなげていくか、それを軸にまちづくりをしていきたい 	⑩市民・企業の主体的な行動により、カーボンニュートラルが大きく進んでいる

第6次総合計画評価・検証（行政内部）					市民の意見		2040年のありたい姿 （キーワード）
政策分野	基本政策	主な取組	主要な検討課題	ありたい姿	グループインタビュー：青 まちづくり市民意見交換会（Web含む）：緑	第1回総合計画審議会での意見：紫 市民の声アンケート：赤	
健康福祉分野	市民の健康寿命の延伸	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりポイント事業を実施 地域包括ケアシステムの構築の推進 市立診療所への医師の派遣体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 小児期からの肥満の増加傾向を踏まえた生活習慣病予防の取組の推進 病院経営の悪化や医師の働き方改革を踏まえた地域医療体制の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが生涯を通じて心と体の健やかさを保てる環境が整い、安心して自分らしく暮らしている 要介護認定者が抑制され、誰もが健康づくりを心がけることで、健康寿命が延伸し、自立した生活を送っている 必要な医療を必要な時に受けることができる医療体制を構築している 	<ul style="list-style-type: none"> 障害者に優しく、引きこもりが解消され、精神的に元気に暮らしている 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師などのスタッフ、医師の確保、医師の働き方改革への対応 医療体制の充実と医師の充足を期待する 病気の早期発見に向けた意識啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ①健康寿命が延伸し、自立した暮らしを送っている ②必要なときに必要な医療を受ける体制が整っている
	安心できる福祉の推進	<ul style="list-style-type: none"> 通いの場に生活支援コーディネーターを配置 地域の特性に応じた支え合い体制づくり 保育園や幼稚園、学校などと連携した切れ目のない支援 すこやかなくらし包括支援センターを福祉交流プラザに移転 専門職員の集約と相談窓口の一元化 	<ul style="list-style-type: none"> 後期高齢者人口の増加や高齢者世帯の増加を見据えた環境整備 重度の障害者への相談、受入に携わる人材の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人が自分らしい活躍の場や居場所を持ち、安心、安全な生活を送ることができる 就労を通じ、いきいきと活躍している社会が実現している 支援を受けたい人が必要とするサービスが全て揃っている 福祉等に関心を持つ人が増え、福祉人材等が充足している 	<ul style="list-style-type: none"> 助け合いと思いやりで笑顔があふれている 障害のある人も安心して暮らしている 助け合いを求めやすく、助け合えることができる その人らしい居場所がある 老後に安心して暮らすことができる 一人になっても自分の住みたいところに住み続けられる見通しがある 子育て、教育、医療制度が充実している 	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア児への具体的な支援、訪問看護ステーション、障害のある子どもの受け入れ先の確保が必要 安心して暮らしていくことができる地域づくりを目指し、一人一人がお互いを支え合い、見守っていく必要がある 高齢者のみの世帯、高齢者の世帯への支援に力を入れてほしい 介護サービス等が利用できる施設を増やし老後を安心して暮らしたい 生きがいと健康のため、高齢者の就労支援に取り組んでほしい 高齢者が社会に役立っていることが実感できるような具体策が欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ③高齢者や障害者がいきいきと暮らせる居場所を持ち、活躍している
	子どもが健やかに育ち、安心して産み育てられる	<ul style="list-style-type: none"> 電子母子手帳サービスによる情報提供 小学校就学前の子どもや市民税非課税世帯の小学生に対する医療費の完全無料化 国の軽減制度を上回る保育料の軽減 妙高市と連携した病児・病後児保育室の利用 放課後児童クラブの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化や核家族化の進展による不安や孤立感の軽減に向けた、妊娠期からの相談体制の強化と産後ケアやきめ細やかな保育サービスの提供 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達に不安を抱える保護者の誰もが相談や療育支援を受けることができ、悩みや不安が軽減されている 児童虐待防止について、意識している人が増えるとともに、子どもの健全育成と保護者の就労支援の両立ができている 	<ul style="list-style-type: none"> 若い人に出会いが生まれ、子育てしたいと思う人が増えている 子育て世帯にとって住みやすい 子育てや老後に安心して暮らせている 経済的に負担が少なく保育園に預けて働くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 出産、子育て世帯から選んでもらえる地域を作っていく必要がある 家庭の中だけではなく地域社会での助け合い、孤立させない支援が必要 子育てで広場が直江津周辺にもあったらいいと思う 子育て支援を充実してもらえたら嬉しい 	<ul style="list-style-type: none"> ④このまちで子育てしたいと思う人が増えている ⑤子どもが健やかに育っている

第6次総合計画評価・検証（行政内部）					市民の意見		2040年のありたい姿 （キーワード）
政策分野	基本政策	主な取組	主要な検討課題	ありたい姿	グループインタビュー：青 まちづくり市民意見交換会（Web含む）：緑	第1回総合計画審議会での意見：紫 市民の声アンケート：赤	
産業・経済分野	足腰の強い生産基盤の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・市制度融資等の適切な運用 ・事業承継セミナーの開催 ・メイド・イン上越認証品の認知度向上 ・店舗改装工事や設備導入に係る費用の支援 ・港湾振興専門員によるポートセールス ・立地特性を生かした企業誘致活動 ・起業、創業に関するセミナー開催 ・融資に係る利子額相当分の補助 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働人口や技術職等の人材不足への対応と生産性の向上 ・人口減少社会における地域活性化に向けた、若者や女性の働く場の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内での投資から雇用と消費が生まれ、地域経済の循環により生活水準が維持、向上している ・直江津港の利便性が向上している ・企業立地により多様な働く場が提供されている ・新産業や優良企業の進出を通じて、労働人口や交流人口が増加している ・地域全体の担い手確保に向け、社会的課題の解決に向けた準ソーシャルビジネスが普及している 	<ul style="list-style-type: none"> ・食料やエネルギーの自給率が高まり、域内で経済が循環している ・稼ぐ仕組みが整い、まち全体が活性化している ・地域の特色をいかし、地域資源・経済が循環し、賑わいがあふれている ・商店街に活気があって、ぶらぶら歩きながら買い物やお茶を楽しんでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく自分のまちにお金を落とし循環させることが重要 ・商店街に賑わいが出てほしい ・大学卒業後の人が働きたいと思える就職場所の誘致が必要 ・積極的に拠点都市（IT）等の誘致に挑戦してほしい ・企業誘致や商業施設など上越妙高駅をいかしてほしい 	<p>⑯地域経済の好循環が生まれ、まちに活気が生まれている</p> <p>⑰市内企業が全国、世界で活躍している</p>
	交流人口の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・新水族博物館「うみがたり」を核としたまちなか回遊促進 ・観光地域づくり実践未来塾の開講 ・#上越もようフォトコンテストの実施 ・市内への立寄旅行ツアーの造成の取組支援 ・スポーツ合宿への補助制度創設 	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナを見据えた交流拡大の仕掛けや観光資源の磨き上げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力ある歴史的資源、観光資源が受け継がれている ・若者や各種団体がまちの担い手として活躍している ・一体感のある取組が推進され、来訪者が市民の日常に溶け込み、楽しむ観光地域となって交流人口が増えている ・各種コンベンションの開催やスポーツ合宿、企業研修等の誘致により交流人口が拡大し、地域経済が活性化している 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や文化をいかし、賑わいが生まれている ・訪れた人が「来てよかった」と感じている ・多様な地域資源を中心に、人々が集い、交流している ・観光客がたくさん訪れている ・大型スーパー、商業施設が充実するほか、商店街にも人の流れができ、たくさんの人が訪れ賑わいがある ・長野、富山、新潟エリアと連携している ・ふるさと納税が充実し、訪れてみたくなくなる、再訪したいと思う人が増えている ・SNS情報発信で、県外の友人に自慢できる魅力がある ・帰省が楽しみになっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光分野ではコロナ禍を通じて今までの常識がひっくり返っている。新しい概念を取り込んでいく必要がある ・上越市ならではの魅力をいかした地域の売り出し方を模索する必要がある ・子どもから若年層も楽しめるような商業施設や観光地が欲しい ・豊かな風土、食や歴史など他にはない特色をブランド化し観光資源にしてほしい ・上杉謙信、レルヒ少佐のスキー、前島密など歴史あるものや人物が多いにもかかわらず活用できていない。SNSを活用した情報発信やそれらの楽しみ方を提案してほしい ・コロナ収束後、スポーツイベント等を通して多くの人を集客してほしい 	<p>⑱多くの人が訪れ、まちに賑わいがあふれている</p>
	生きがいとやりがいを生む雇用の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・インターシップ受入促進事業助成金の創設 ・高校生と高校の就職担当教諭を対象とした企業見学会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する働き方を踏まえた、ワーク・ライフ・バランスの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・起業によるイノベーションが生まれ、全国的にも先進的なビジネスが生まれている ・市内企業の認知度、就業環境が向上し若手社員の就業と定着が図られている ・ワークライフバランスの推進に伴い、若手労働者の定着や移住者が増加している。 ・地域の酒と酒文化に愛着と誇りを持ち、飲酒や贈答として消費が保たれている ・キャリアをいかした起業が広く浸透し、Uターンした女性が多く活躍している 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジする若者が応援、支援されている ・子どもたちが戻り、若者が活躍している ・障害者雇用が推進されている ・リモート環境が整備され、20代後半から30代の方が来たいと思っている ・雇用の場が確保され、住みたいまちランキングが上位となっている ・デジタルを活用し、様々な業種がそろい、若者が働く場を選択することができている ・全ての企業で子育て世帯が休みやすい環境が整っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が安心して働ける場所づくりが必要 ・課題解決型のインターンシップを通じ関係人口や交流人口の増加を図る ・新しく事業を始める方への補助金等が充実しているといい 	<p>⑲多様な人材が集う、魅力ある雇用の場が創出されている</p> <p>⑳希望するワーク・ライフ・バランスに応じた働き方が定着している</p>

第6次総合計画評価・検証（行政内部）					市民の意見		2040年のありたい姿 (キーワード)
政策分野	基本政策	主な取組	主要な検討課題	ありたい姿	グループインタビュー：青 まちづくり市民意見交換会（Web含む）：緑	第1回総合計画審議会での意見：紫 市民の声アンケート：赤	
農林水産分野	農林水産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・農業生産基盤の強化、施設等の導入支援 ・就農イベント等による当市の農業の魅力発信 ・6次産業化の推進 ・都市型直売所への出展支援 ・インターネットショッピングモールの活用 ・雪中貯蔵施設「ユキノハコ」を整備 ・鳥獣被害実施隊を関係集落と組織 ・森林経営管理法に基づく森林経営管理制度の取組推進 ・ヒラメ、アユ、クルマエビなどの種苗を放流 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化に伴う後継者不足に向けた担い手の確保と育成・定着 ・米価や魚価等の下落による所得低下を踏まえたICT等を活用した販売力の強化や所得向上に向けた取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色や生産者のこだわりをいかした上越らしいブランドの確立、水稲と園芸等との複合経営等により農業所得が向上している ・市内外の新規就農希望者が就農し、後継者が確保されている ・林業経営体等によるスマート林業の導入により森林整備が促進されている ・漁業施設の機能を維持し、漁業団体の健全な発展に向けた体制が整備されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然・観光・商業が一体的にPRされ、農林水産分野の注目度が高まっている ・豊かな食、田んぼや里山の美しい景色が受け継がれている ・無農薬で安心安全な食べ物で子どもを育てている ・自給率が高く、食料危機を回避している 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国に向けた農産物のPRが必要 ・当たり前においしいものがあるのに発信力が弱い。もっと情報発信を積極的に取り組む必要がある ・農林水産業の恩恵、貢献をもっとPRすべき 	①農林水産業の魅力と価値が高まり、生業として確立している
	多面的機能の維持	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者と食品関連事業者のネットワーク強化 ・上越産品に特化したインターネットショッピングモールの活用 ・棚田米等の付加価値向上 ・販路拡大に対する意識醸成などの取組 ・集落づくり推進員による集落巡回、地域課題の解決 ・地域おこし協力隊による課題解決や活性化 ・第3次上越市食育推進計画に基づくアクションプランの実施 ・地産地消推進の店を認証 ・農福連携事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域における担い手不足を踏まえた支え合い体制の構築に向けた支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化・生業があり、郷土愛にあふれ、いきいきとした市民が生活している ・愛着や誇りを持ち、住み続ける先人たちとその地域の応援者、ファンとの支え合い、助け合いにより集落機能が維持されている ・健全な食生活の実践が浸透し、市民が心身ともに健康で充実した生活を送っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が中山間地域に住みたいと思っている ・中山間地域の関係人口が増加している ・地域の特産物など小さな地域の特色を大事にしながら稼いでいる ・市民が中山間地域の重要性や棚田の機能等を認識し、維持に協力的になっている ・無理なく働き、子育てしながら、田舎暮らしを満喫している 	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域における田んぼの多面的機能をPRする必要がある ・中山間地域の農業は単なる治水効果だけではなく文化をつなぐ視点も必要 ・交通面など中山間地域でも安心して暮らせる施策が必要 ・若者は中山間地域を出て、高齢者が残っている。もっと中山間地域に目を向け力を入れてほしい ・学校給食にもっと地場産物を取り入れてほしい 	②中山間地域の暮らしと文化が継承され、多くの人に認められている

第6次総合計画評価・検証（行政内部）					市民の意見		2040年のありたい姿 （キーワード）
政策分野	基本政策	主な取組	主要な検討課題	ありたい姿	グループインタビュー：青 まちづくり市民意見交換会（Web含む）：緑	第1回総合計画審議会での意見：紫 市民の声アンケート：赤	
教育・文化分野	学校教育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のユニバーサルデザイン化 ・個別の支援やティーム・ティーチング指導 ・取り出しの学習指導 ・児童のニーズに応じた教育支援 ・GIGAスクール構想に基づく校内通信ネットワーク整備や情報端末の設置 ・適応指導教室を2か所開設 ・訪問指導や児童生徒の在籍校への連絡相談及び学校訪問 ・上越市学校施設長寿命化計画に基づく学校教育環境の維持向上 ・小中学校適正配置基準の推進 ・若者の居場所（Fit）を常設 ・水族博物館「うみがたり」における水生生物の常設展示、企画展 ・オーレンプラザにおける文化活動の広がりや市民交流の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観や課題を持つ児童生徒への教員の指導方法の習得 ・増加傾向にある長期の不登校児童生徒が抱える不安の早期把握と相談体制の強化 ・児童生徒数の減少を踏まえた学校適正配置に向けた保護者や地域の理解促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性を認め合い、ともに学びを作り上げていく資質能力が向上している ・学校と地域との連携、保、幼、小、中の連携による子供の学びに着目した授業が行われている ・地域内外のリソースを活用した探究的な学習の推進や個別の学習支援が充実している ・不登校児童生徒が安心して教育を受けている ・オンライン授業、フリースクールなど、多様な学び方が選択できる教育環境が整備されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民、町内会、企業・学校・行政などみんなで助け合い、孤立することなく、安心して暮らしている ・教育に力を入れて、子どもたちが活躍している ・子どもが自己肯定感を高め、夢や希望をもって過ごすことができている ・外国人材が活躍し、子どもと関わることで、国際感覚を育てる教育が整っている ・若者が市外に行かなくても希望する専門学校や大学がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に出てから自分の幸せを作っているような力をつける教育に取り組む必要がある ・山間部の地域は、スクールバスを出して大勢の中で学べるようにしてほしい ・地域の伝統行事や伝統料理などを伝え、誇りを持ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ㉓子どもたちが自分の未来を描き、主体的に行動できる力が身についている ㉔学校や地域が一体となって、子どもたちの成長を支える環境が整っている ㉕多様な学び方が選択できる教育環境が整っている
	社会教育・文化活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブ及びスポーツ推進員による各種スポーツ大会や教室の実施 ・東京2020オリンピック・パラリンピック事前合宿の受入 ・旧今井染物屋の市文化財としての保存 ・バテンレースを基軸とする常設工房を設置 ・手仕事文化の継承と情報発信 ・「地域の宝」を認定する新たな制度創設 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化・スポーツ活動における各種団体数や会員数の減少を踏まえた担い手の確保や団体間連携の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康増進や体力づくりや競技力の向上など、スポーツを通じて人と地域が結び付き、地域が活性化している ・郷土愛や歴史・芸術文化への興味・関心を持つ子どもたちが増え、担い手により地域の伝統文化が守られている ・歴史・文化資源を活用した地域づくりが推進され、地域振興施策や観光施策との連携が図られている 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通じた地域づくりが行われている ・パラスポーツが盛んに行われている ・歴史や文化を通じ、子どもたちが地元に着を感じている ・大人が上越を楽しんでいる姿を見て、子どもも上越に興味を持っている ・「あなたは地域の大事な一員」といった意識を育て、子どもが地域に残っている ・子どもたちや若い世代への愛着の情勢となる良い思い出に取り組んでいる ・新潟市のサッカーのような、スポーツ事業が盛り上がり、他県他市から愛されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・景色を見ながら、天候に左右されずにウォーキングやジョギングができる場所があるとよい ・歴史、旧跡等たくさんあるが、もっと整備し知る機会を作るべき ・音楽・文化公演をたくさん行い、心ゆたかな人間形成のできるまちづくりを行ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ㉖地域の伝統文化が守られ、地域のかけがえのない魅力となっている

第6次総合計画評価・検証（行政内部）					市民の意見		2040年のありたい姿 （キーワード）
政策分野	基本政策	主な取組	主要な検討課題	ありたい姿	グループインタビュー：青 まちづくり市民意見交換会（Web含む）：緑	第1回総合計画審議会での意見：紫 市民の声アンケート：赤	
都市基盤分野	機能的・安定的な都市基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> 各種長寿命化計画や各種整備計画に基づく維持補修と施設整備 長期未着手の都市計画道路の計画廃止 消融雪施設整備計画に基づく施設整備 除雪機械の計画的更新 町内会等に報償金を支払う制度創設 第2次総合公共交通計画を策定し、タイヤの設定及び停留所の新設 バスロケーションシステムの導入 上信越自動車道の4車線化事業完了 	<ul style="list-style-type: none"> 進行するインフラ施設の老朽化への対策や長寿命化計画に基づく予防保全の実施 安定した下水道経営の実現に向けた計画的かつ効率的な整備 除雪オペレーターの高齢化や担い手不足を踏まえた作業の効率性や安全性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化施設の廃止や統廃合を含めた方針により施設数が減少し、「予防保全型」修繕がメインとなり、適切に機能維持が図られている 道路等の整備が進捗し、利便性や救急医療の速達性、災害時の避難路や代替路等の機能が向上している 除雪作業の効率性、安全性が向上し、安定的な機械除雪体制が維持確保されている 公共交通だけではなく、様々な取組を組み合わせ、自家用車がなくても安心して生活できる利用しやすい移動手段が確保されている 	<ul style="list-style-type: none"> 年寄、独り暮らし世帯、障害者が住みやすい交通網が整備されている 各高校等のバスが整備され、子育て世帯にとって住み安くなっている 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物や通院などを支える交通網の確保が重要 通学や買い物を支える公共交通が重要 危険な箇所が多く、小学校への通学路の見直しと整備が必要 センターラインや矢印が消えている道路が多い。きちんと管理してほしい 除雪レベルが低下しないよう技術等の継承ができるように取り組んでほしい 車を運転しなくても病院や買い物等に行けるようにしてほしい 免許返納後の通院と買い物ができる循環乗り物があると助かる 小型バスを運用して本数を増やしてほしい フリーパスや定額で乗れる仕組みがあると助かる 昼間の鉄道の乗り換えをスムーズにしてほしい 	<p>㉗機能的・安定的な都市基盤が整い、市外・県外とつながっている</p> <p>㉘車を運転できなくても安心して生活できる環境が整っている</p>
	魅力的な空間の形成	<ul style="list-style-type: none"> まちなか居住の推進に向けたワークショップ開催 上越妙高駅周辺地区商業地域への企業進出支援 修景活動や雁木通りのにぎわいづくりなどの活動支援 高田城址公園短期整備計画等に基づく施設機能の充実 高田城址公園桜長寿命化第二期計画に基づく桜の保護や育成 	<ul style="list-style-type: none"> 上越妙高駅周辺地区商業地域における広域交通網の拠点性をいかした土地利用の検討 景観まちづくり活動を通じた地域づくりの他地区への波及 	<ul style="list-style-type: none"> まちなかの交流空間や健康づくり、憩いの場となる公園等のオープンスペースが充実し、生活にゆとりや潤いを実感している 都市がコンパクト化・高密度化し、コミュニティが継続、空き家・空き地の増加の抑制が図られ、賑わいのあるまちとなっている 施設の老朽化対策やバリアフリー化が進み、公園の安全性、利便性が向上し、安全、安心な利用環境が確保されている 高田城址公園、五智公園は、シンボル公園として質の高い空間が形成されている 	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺に商業施設が多くなった 空き家等の活用が促進され、都会から戻ってくる人が増えている 	<ul style="list-style-type: none"> 空き町家を店舗へ変え、若者が帰ってきたくなるまちを目指すべき 空き店舗、空き家を活用してほしい 日本一と言われる雁木に段差や屋根がないところが目立つ 子どもを安心して遊ばせる場所づくりを希望する 	<p>㉙空き地や空家等の利活用が促進され、地域コミュニティが維持されている</p> <p>㉚憩い・集い・くつろげる質の高い空間が形成されている</p>

第6次総合計画評価・検証（行政内部）					市民の意見		2040年のありたい姿 （キーワード）
政策分野	基本政策	主な取組	主要な検討課題	ありたい姿	グループインタビュー：青 まちづくり市民意見交換会（Web含む）：緑	第1回総合計画審議会での意見：紫 市民の声アンケート：赤	
行財政分野	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と肩ひじ張らずに気軽に意見交換ができるような環境が整っている ・将来世代のことを考え、不要な施設や事業が適切に見直されている ・民間企業の力がまちづくりに活用されている ・議員や役所職員がやりがいをもって、いきいきと働いている ・高齢者や一部の人の声だけではなく、若者等の意見を聞きながらまちづくりを進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外的要因による物価上昇を踏まえ、安定的な財政状況を維持できるのか注視する必要がある ・人口減少は劇的に改善しない。本当に必要な施設を検討し、将来のあるべき姿を考えていく必要がある ・上越の風土、伝統をいかしながら、ICTを活用したまちづくりに取り組む必要がある ・人口減少による税収の低下が予想されるため、必要以上のサービスは不要。人為削減も必要 ・少子高齢化、財政難が加速すれば広範囲ではなく集中的な投資が必要 ・ふるさと納税を活用、歳入確保に取り組んでほしい ・20年、30年を見据え、将来的に持続できそうもないことについて考え取り組んでほしい ・なかなか声が届かず、行政がとにかく遠くを感じる ・行政の優先課題は状況に応じて変化する。タイムリーな行動を心掛け柔軟な市政であってほしい 	③持続可能な行財政運営が行われている